

白山高等植物  
インベントリー調査報告書

1995

石川県白山自然保護センター

## 序

白山は中部日本の日本海側にそびえる独立峰であって高山帯を有する山としては最西端に位置します。そのことが理由となって、白山を分布の西限とする高山植物が数多く報告されています。

白山の高山帯はその面積が狭く、独立峰なるがゆえに高山帯は孤島的な存在となっています。そのため日本アルプスなどの同種の植物との遺伝的な交流は難しく、遺伝的に種の維持機構が失われ、すでに絶滅した、あるいは絶滅の危機に瀕している植物が存在するかもしれません。また、今後人為による地球的規模の環境の加速的な変化も危惧されております。このときにあたって、私たちが、ここに生育する植物に対して、どんな手立てを尽くして種の生存の維持に関われるか、そんな研究も自然保護の仕事の重要な一面ではないかと思えます。

今回の調査の目的は大きく分けて二つありますが、一つは、白山の植物をもっと正確に理解すること、そのための基礎資料として正確な高等植物の目録を完成させることです。これまでに全く目録がないわけではなく、評価すべき植物目録もあるのですが、これが全分野に及ばなかったり、また、あってもこれを立証する標本の裏付けがとれていないことがあって植物目録としては今一步及ばないものといえるのです。従って、今回の白山高等植物インベントリー調査は、こうした過去の空白を埋めるため、標本と一体性のある目録を完成させることを目指したものであります。

もう一つは、科学技術庁からの委託研究である地域流動研究「白山山系における高山植物の多様性の解明と遺伝子資源の保全法の確立に関する研究」の関連研究として文献にある希少種を探し、研究の対象種に加えることにあります。この研究は、白山山系の高山植物を対象に集団の動態を究め、生態、形態、細胞、分子レベルにおける多様性の解明を踏まえ、バイオテクノロジーを駆使して遺伝子資源の保全と再生を図ることをめざし、白山に生育する高山植物の保護のあり方を探るものであります。この調査によって新しく発見された種はもとより、過去の文献にあって所在が不明であった種も白山にあっては希少種でありますから、同じく保護が要求される種となります。更にこの調査によって多種の植物の多様な環境にわたる分布域の広がりもわかってきましたので、種の適地分布などの示唆も得られます。従って、この成果が今後、希少種の保護や植生復元などの基礎資料として、白山全体の植物の保護管理に役立つものと考えられます。

終わりにになりましたが、この度、この調査及び報告書作成に携わられた多くの方々に謝意を表すとともに、白山の自然が人類の遺産として永久にまもられていくことを心から願うものであります。

石川県白山自然保護センター  
米 山 競 一

# 目 次

## 凡 例

### 白山高山帯インベントリー調査結果

#### シダ植物 PTERIDOPHYTA

ヒカゲノカズラ科	Lycopodiaceae	1 - 4
イワヒバ科	Selaginellaceae	5
ハナヤスリ科	Ophioglossaceae	5 - 6
キジノオシダ科	Plagiogyriaceae	6
シシガシラ科	Blechnaceae	7
オシダ科	Dryopteridaceae	7 - 9
ヒメシダ科	Thelypteridaceae	10
メシダ科	Athyriaceae	11 - 13
ウラボシ科	Polypodiaceae	14

#### 種子植物 SPERMATOPHYTA

#### 裸子植物 GYMNOSPERMAE

マツ科	Pinaceae	14 - 16
ヒノキ科	Cupressaceae	16

#### 被子植物 ANGIOSPERMAE

#### 双子葉植物 DICOTYLEDONEAE

#### 離弁花類 CHOLIPETALAE

ヤナギ科	Salicaceae	16
カバノキ科	Betulaceae	17 - 18
タデ科	Polygonaceae	18 - 22
ナデシコ科	Caryophyllaceae	22 - 24
キンポウゲ科	Ranunculaceae	25 - 32
メギ科	Berberidaceae	33
マタタビ科	Actinidiaceae	33
オトギリソウ科	Guttiferae	34
ケシ科	Papaveraceae	35
アブラナ科	Cruciferae	35 - 38
ベンケイソウ科	Crassulaceae	38 - 39
ユキノシタ科	Saxifragaceae	40 - 46
バラ科	Rosaceae	47 - 57
マメ科	Leguminosae	57 - 58
カタバミ科	Oxalidaceae	59
フウロソウ科	Geraniaceae	59 - 60
トウダイグサ科	Euphorbiaceae	60
ミカン科	Rutaceae	61
カエデ科	Aceraceae	61 - 62
モチノキ科	Aquifoliaceae	63 - 64

ニシキギ科	Celastraceae	64 - 65
スミレ科	Violaceae	65 - 68
アカバナ科	Onagraceae	68 - 71
ミズキ科	Cornaceae	71 - 72
ウコギ科	Araliaceae	72 - 73
セリ科	Umbelliferae	73 - 78

### 雑弁花類 SYMPETALAE

イワウメ科	Diapensiaceae	79
ツツジ科	Ericaceae	80 - 91
ガンコウラン科	Empetraceae	91
サクラソウ科	Primulaceae	92 - 93
リンドウ科	Gentianaceae	94 - 97
ミツガシワ科	Menyanthaceae	97
アカネ科	Rubiaceae	97 - 99
ムラサキ科	Boraginaceae	99
シソ科	Labiatae	100 - 102
ゴマノハグサ科	Scrophulariaceae	102 - 106
ハマウツボ科	Orobanchaceae	107
タヌキモ科	Lentibulariaceae	107
オオバコ科	Plantaginaceae	108
スイカズラ科	Caprifoliaceae	109 - 111
オミナエシ科	Valerianaceae	112
マツムシソウ科	Dipsacaceae	113
キキョウ科	Campanulaceae	113 - 117
キク科	Compositae	117 - 135

### 単子葉植物 MONOCOTYLEDONEAE

ユリ科	Liliaceae	135 - 146
イグサ科	Juncaceae	147 - 150
イネ科	Gramineae	150 - 162
サトイモ科	Araceae	162 - 163
ミクリ科	Sparganiaceae	163
カヤツリグサ科	Cyperaceae	164 - 175
ラン科	Orchidaceae	176 - 181

### 索引

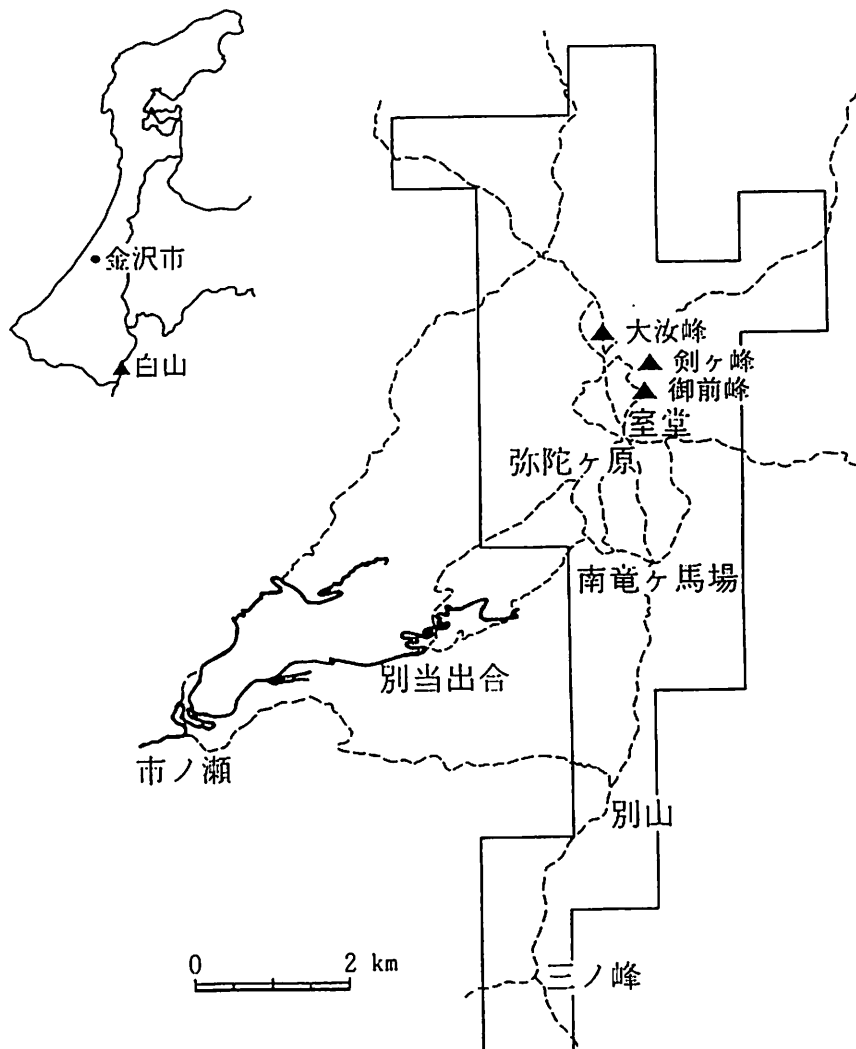
学名索引  
和名索引

## 凡 例

1. 分布図は、シダ植物・裸子植物・被子植物(双子葉植物・単子葉植物)をこの順序に従って収録した。科の配列は、環境庁自然保護局編(1987)\*<sup>1</sup>に従い、科内では、学名のA、B、C順とした。分布図は水平分布図、垂直分布図の2葉を一組にして作成した。
2. 掲載した植物は、原則として今回の調査で標本が採集されたものに限ったが、一部、金沢大学理学部生物学科および石川県白山自然保護センターの標本庫所蔵のもので、所在が明らかなものも掲載した。
3. 調査期間は1993年および1994年の2ヶ年である。調査地は環境庁自然環境保全調査用メッシュの3次メッシュに基づき、白山の高山帯を中心として標高2,200m以上の地域が含まれる30メッシュとした(図)。該当する地域メッシュコード(JIS C-6304-1976)は次の通りである。

54360690	54361600	54361611	54361610	54361621	54361631	54361641
54361642	54361651	54361652	54361660	54361661	54361662	54361670
54361671	54361672	54361680	54361681	54361682	54361691	54361692
54361693	54361690	54362519	54362600	54362601	54362603	54362610
54362611	54362621					

これらのメッシュは国土地理院作成の2万5千分の1地形図を縦10等分、横10等分の100分割したもので約1 km×約1 kmの範囲に相当する。



4. 垂直分布図は調査地域の南北方向の透視断面図上に高度分布を示したもので、メッシュは縦方向が3次メッシュの刻み、横方向が標高を示す。標高は200m刻みで、標高1,800m以上を示した。調査対象範囲に色を付けてある。なお、調査地の標高がちょうど2,000mである場合は~2,000mの刻みに●印をつけた。他の場合もこれに準じている。

5. 各分布図には和名(科名)、学名、要素区分、分布群落、標本番号、標本採集地、標本採集年月日、標本採集者、花期、注記を記した。

要素区分は清水(1983)\*<sup>2</sup>によるもので、区分されていない種については空欄になっている。

分布群落は、その種が確認された群落を示している。群落は次の11にわけ、( )内を分布図に記した。

岩隙植生	(岩隙)	雪田群落	(雪田)
風衝地	(風衝)	ササ自然草原	(ササ)
岩屑荒原	(岩屑)	湿原群落	(湿原)
ハイマツ低木林	(ハイマツ)	ダケカンバ林	(ダケカンバ)
夏緑低木林	(夏緑低木)	オオシラビソ林	(オオシラビソ)
高茎広葉草原	(高茎草原)		

標本については白山自然保護センター所蔵のものはHNCC、金沢大学理学部生物学科の標本庫所蔵のものはKANAGAがついている。標本採集者の略号は次の通りである。

ABT	阿部建夫	ONF	小野ふみゑ
HTM	橋本光政	OTH	大畑弘
IET	井上隆雄	SIE	四手井英一
IRM	井原正昭	SIN	白井伸和
KDM	改田美香	SIT	清水孝彰
KMM	小島めぐみ	SNH	杉野弘之
MNG	正宗嚴敬	SUT	佐藤卓也
NIT	西井武秀	SZT	清水建美
NKA	中垣明子	YMK	米山競一
NMT	野上達也	YUA	柳生敦志
ODK	岡田佳菜子		

花期は、今回の調査期間中に明らかになったものを記した。

\*1 環境庁自然保護局編 (1987) 植物目録(上)分類系順 植物目録1987, 1-238.

\*2 清水建美 (1983) 日本高山植物の系譜 原色日本高山植物図鑑(II), 270-276.

# 白山高等植物インベントリー調査検討委員、調査員

## 検討委員、調査員

小牧 旌	
清水 建美	金沢大学理学部生物学科
植田 邦彦	金沢大学理学部生物学科
大畑 弘	輪島市立南志見小学校
小野 ふみゑ	金沢市立西南部小学校
西井 武秀	七尾市立山王小学校
米山 競一	石川県白山自然保護センター
野上 達也	石川県白山自然保護センター

## 調査協力者

阿部建夫	井上隆雄	井上素子	岡田佳菜子	改田美香
金森康陽	北畠啄郎	小島めぐみ	佐々木秀雄	佐藤卓也
清水孝彰	白井伸和	中垣明子	西沢徹	柳生敦志